

平成25年度

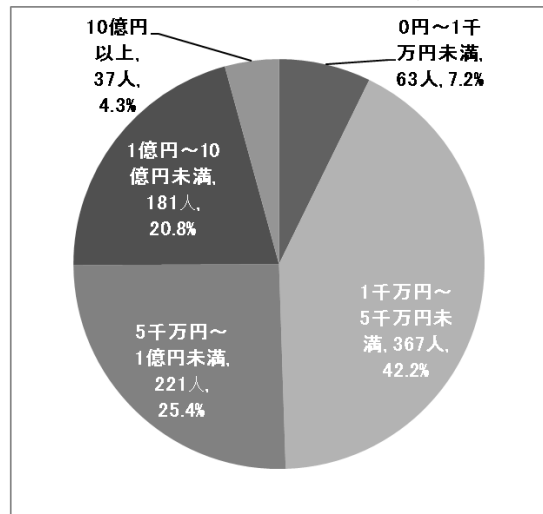
中堅・中小企業の新入社員意識調査 結果概要

- 【調査対象】 東京商工会議所が開催した新入社員研修を受講した中堅・中小企業の新入社員870名
- 【調査期間】 平成25年3月29日～4月12日
- 【有効回答】 計869名（男性596名、女性273名）
- 【回答率】 99.9%

学歴別受講者分布

受講者の学歴分布			
学歴	男性	女性	計
大学院卒	74人 (12.4%)	16人 (5.9%)	90人 (10.4%)
大学(理系)卒	162人 (27.2%)	32人 (11.7%)	194人 (22.3%)
大学(文系)卒	190人 (31.9%)	164人 (60.1%)	354人 (40.7%)
短大卒	4人 (0.7%)	11人 (4.0%)	15人 (1.7%)
専門学校卒	59人 (9.9%)	18人 (6.6%)	77人 (8.9%)
高専卒	7人 (1.2%)	2人 (0.7%)	9人 (1.0%)
高卒	97人 (16.3%)	25人 (9.2%)	122人 (14.0%)
その他	3人 (0.5%)	5人 (1.8%)	8人 (0.9%)
無回答	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
合計	596人 (100.0%)	273人 (100.0%)	869人 (100.0%)

企業規模（資本金）別受講者分布



資本金額	会社数	比率
0円～1千万円未満	63	(7.2%)
1千万円～5千万円未満	367	(42.2%)
5千万円～1億円未満	221	(25.4%)
1億円～10億円未満	181	(20.8%)
10億円以上	37	(4.3%)
合計	869	(100.0%)

就職歴別受講者分布

	新卒	以～既 内卒卒 業後 3年	年～中 未就途 満職 経 験3	年～中 以就途 上職 経 験3	そ 他	不 明・ 無回 答
今年度	767人 (88.3%)	37人 (4.3%)	28人 (3.2%)	18人 (2.1%)	9人 (1.0%)	10人 (1.2%)
男性	519人 (87.1%)	29人 (4.9%)	21人 (3.5%)	13人 (2.2%)	7人 (1.2%)	7人 (1.2%)
女性	248人 (90.8%)	8人 (2.9%)	7人 (2.6%)	5人 (1.8%)	2人 (0.7%)	3人 (1.1%)
大学院卒	82人 (91.1%)	2人 (2.2%)	3人 (3.3%)	2人 (2.2%)	1人 (1.1%)	0人 (0.0%)
大学(理系)卒	179人 (92.3%)	9人 (4.6%)	2人 (1.0%)	2人 (1.0%)	0人 (0.0%)	2人 (1.0%)
大学(文系)卒	310人 (87.6%)	20人 (5.6%)	12人 (3.4%)	8人 (2.3%)	2人 (0.6%)	2人 (0.6%)
短大卒	12人 (80.0%)	1人 (6.7%)	2人 (13.3%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
専門学校卒	67人 (87.0%)	4人 (5.2%)	3人 (3.9%)	2人 (2.6%)	0人 (0.0%)	1人 (1.3%)
高専卒	5人 (55.6%)	0人 (0.0%)	1人 (11.1%)	2人 (22.2%)	1人 (11.1%)	0人 (0.0%)
高卒	107人 (87.7%)	1人 (0.8%)	4人 (3.3%)	2人 (1.6%)	3人 (2.5%)	5人 (4.1%)
その他	5人 (62.5%)	0人 (0.0%)	1人 (12.5%)	0人 (0.0%)	2人 (25.0%)	0人 (0.0%)

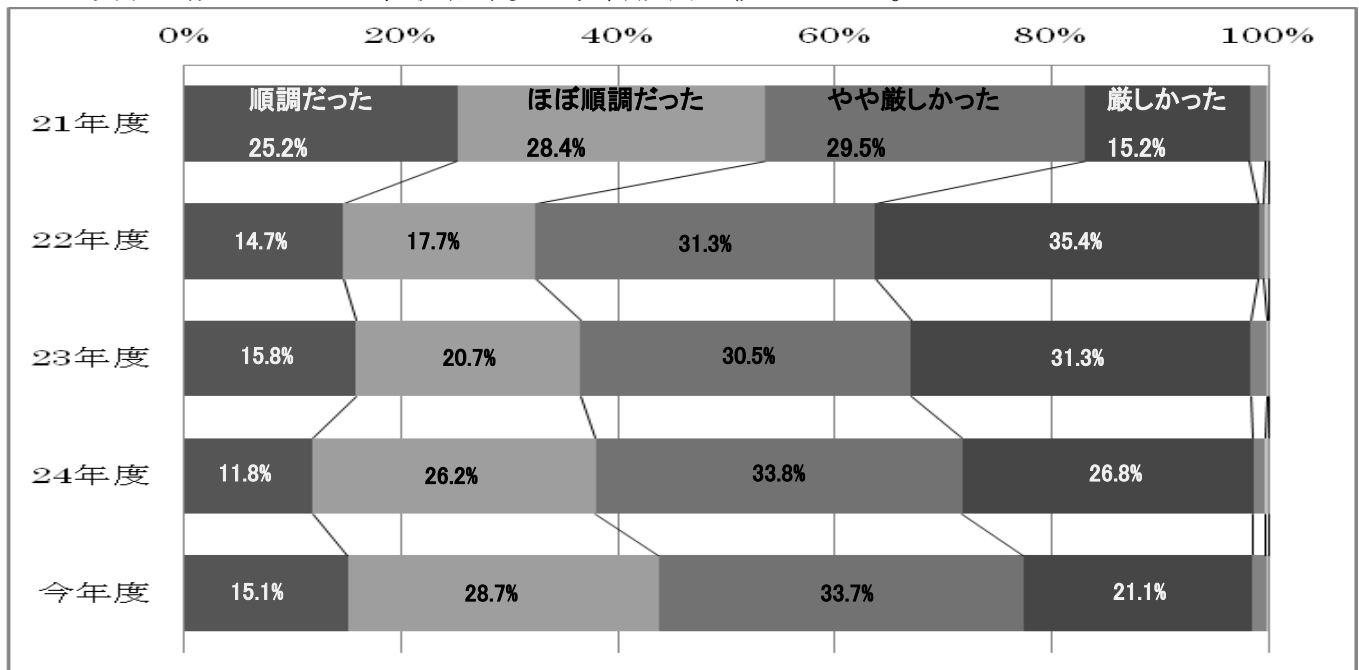
企業業種別受講者分布

業種	受講者数	比率
小売	27	(3.1%)
卸売	122	(14.0%)
製造	220	(25.3%)
金融	7	(0.8%)
建設不動産	114	(13.1%)
資源エネルギー	5	(0.6%)
貿易	16	(1.8%)
サービス・情報産業	287	(33.0%)
運輸交通	39	(4.5%)
その他	32	(3.7%)
合計	869	(100.0%)

1. 就職活動は順調だったか

⇒平成22年度からの改善傾向が続く。

○顕著な悪化がみられた平成22年度以降、「順調だった」「ほぼ順調だった」の合計は増加（32.4%→43.8%）。「厳しかった」（35.4%→21.1%）も年5%程度ずつ減少しており、就職環境の改善傾向が続いている。

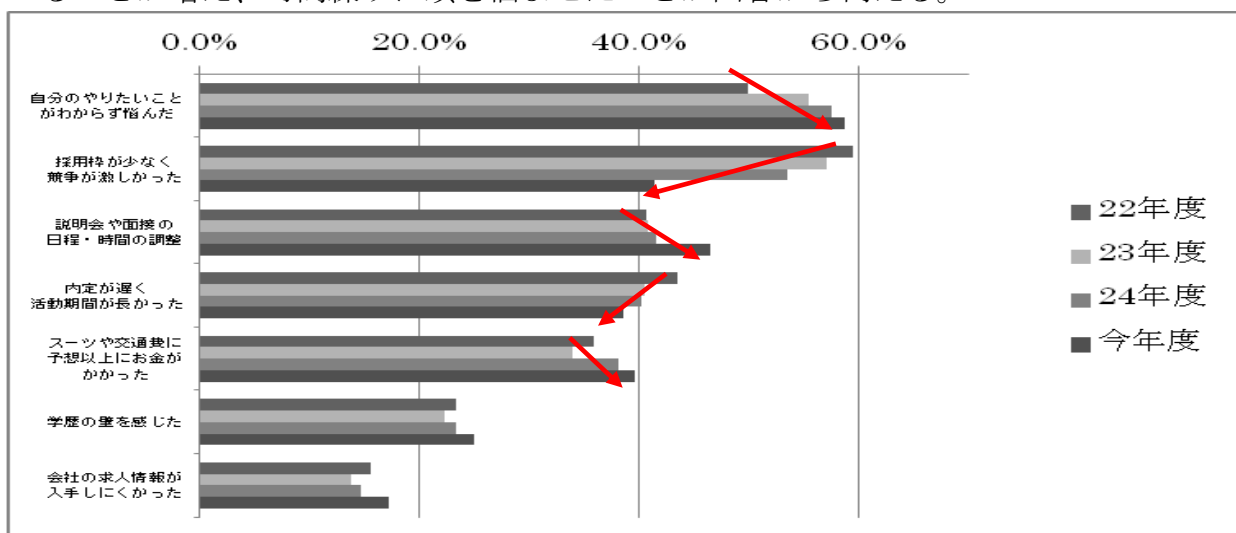


2. 就職活動で苦労したことは何ですか（3つ選んで下さい）

⇒2年連続で自己分析に苦労がトップ。就職環境の改善も伺える結果に。

○「自分のやりたいことがわからず悩んだ」新入社員が2年連続で最も多く（57.6%→58.7%）、自身の特性・適性と業務のマッチングに苦心する傾向にある。また「採用枠が少なく競争が激しかった」（53.5%→41.4%）、「内定が遅く活動期間が長かった」（40.2%→38.6%）と、平成22年度からのトレンドをみても就職環境が改善していることがわかる。

また「説明会や面接の日程・時間の調整」（41.6%→46.5%）との回答が伸びている。5. で後述する就職活動の短期化に伴い、説明会や面接の日時が重なることが増え、時間繰りに頭を悩ませたことが回答から伺える。



3. 入社した会社を選んだ理由は（3つ選んで下さい）

⇒「仕事の内容がおもしろそう」「自分の能力・個性が活かせる」「職場の雰囲気良かった」の上位3回答に変動なし。待遇への関心も重視。

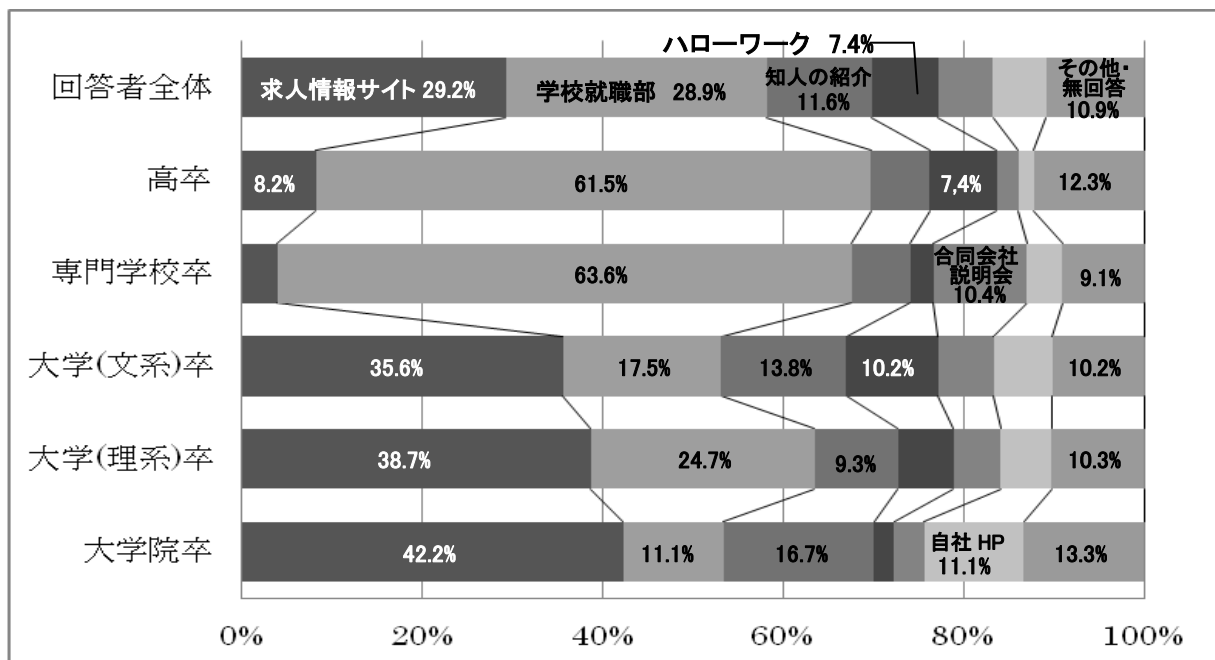
○「仕事の内容がおもしろそう」（55.1%→52.2%）、「自分の能力・個性が活かせる」（43.7%→47.6%）、「職場の雰囲気が良かった」（45.1%→41.0%）、の上位3回答に変動はなく、自分にあった職場環境で能力を発揮したいと考える傾向が定着している。特に「職場の雰囲気が良かった」との回答には男女間に顕著な差がみられた（男性：35.4%、女性：53.1%）。平成24年度の調査でも同様の傾向がみられることから、イキイキと働く先輩社員がいることが、女性が入社を検討する際のインセンティブになっていると考えられる。

また「待遇（給与・福利厚生等）がよい」についても、引き続き増加基調（17.2%→18.2%）にある。就職環境の改善により、待遇面も比較・考慮して就職活動を進めているものとみられる。

4. 入社した会社をどのようにして知りましたか

⇒「求人情報サイト」の回答者がトップに。大学院卒では6人に1人が「知人の紹介」で会社を知るとの結果に。

○回答者全体では「求人情報サイト」（29.2%）が僅差ではあるものの、「学校就職部」（28.9%）を抜いて首位に。高卒・専門学校卒では依然として学校就職部の影響が強いものの、大学卒・大学院卒では求人情報サイトで会社を知るケースが非常に多くなっている。また「知人の紹介」は大学院卒で学校就職部を上回る回答（16.7%）となっている。



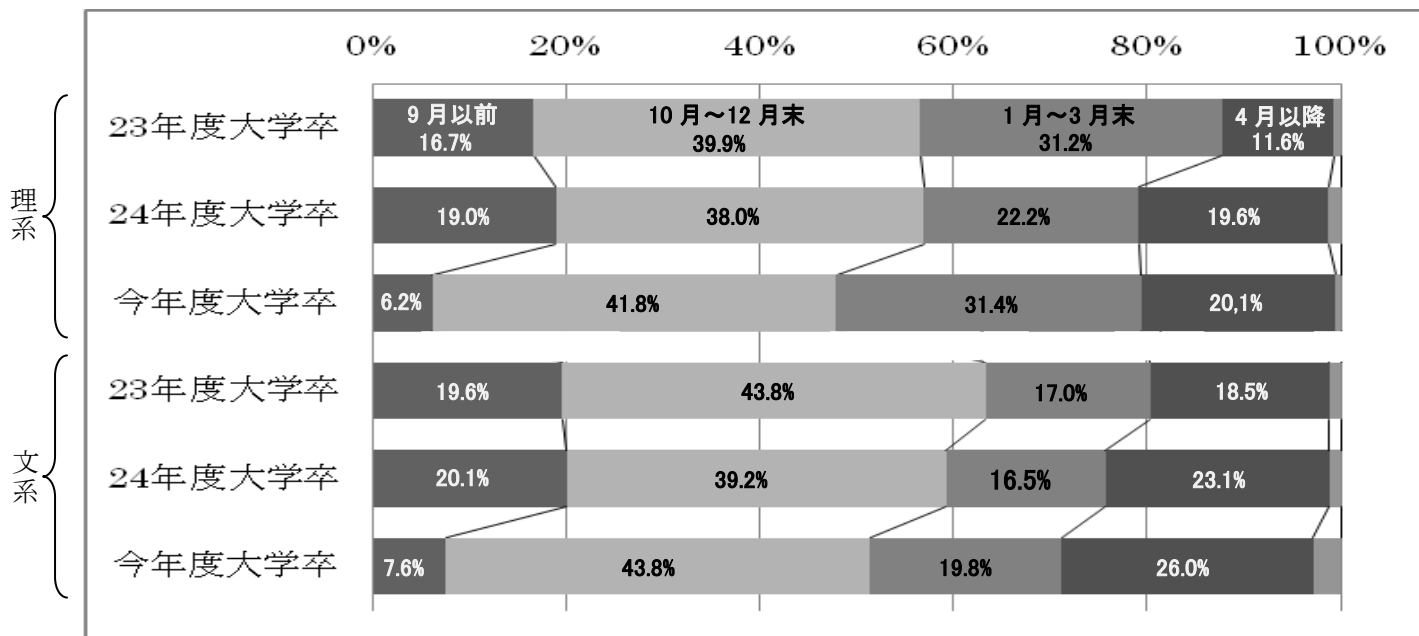
5. 就職活動の期間と内定数

⇒倫理憲章の改定により、大学（理・文系）卒で大学3年時9月以前の就職活動開始者が激減。大学4年時9月以前の入社（内定）決定も増加し、就職活動の期間が短くなると同時に、就職環境の改善が伺える結果に。

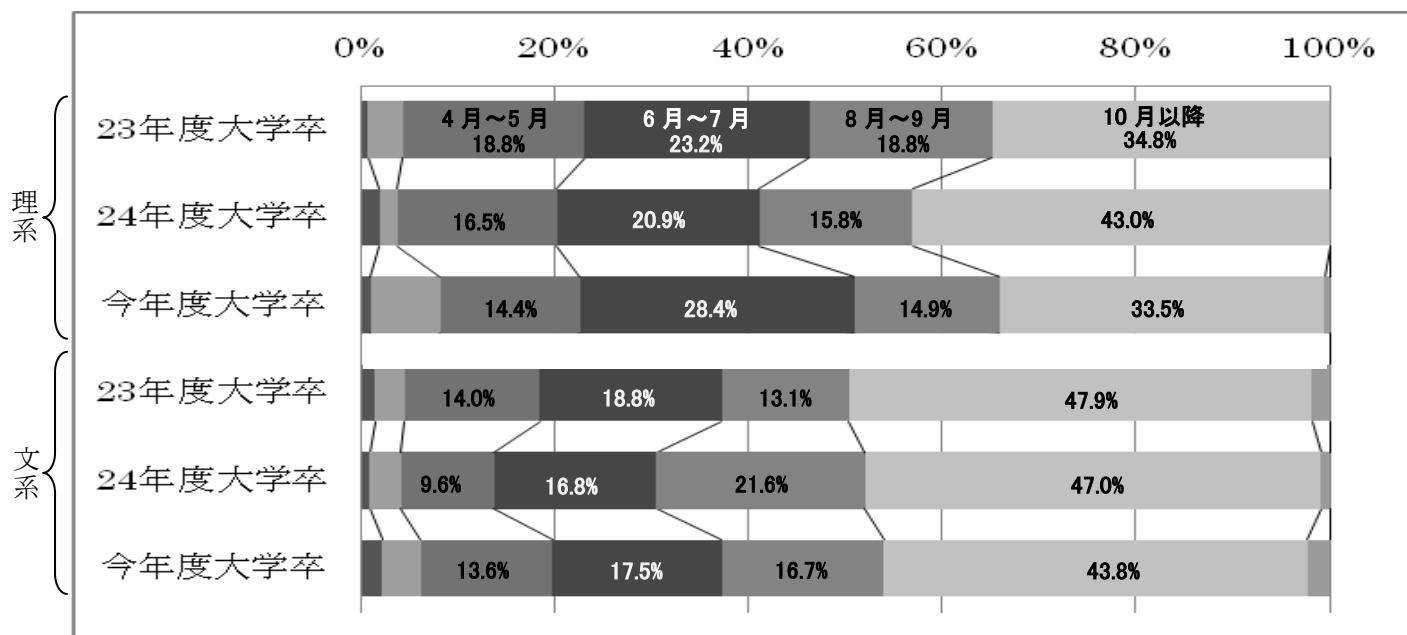
○就職活動の開始時期について、「(大学3年の) 9月以前」と早目にスタートを切った回答者が「大卒（理系）」(19.0%→6.2%)、「大卒（文系）」(20.1%→7.6%)とそれぞれ激減した。就職活動の開始時期に関する学校と経済界の協定により、企業の採用広報活動を12月1日以降に開始することとした影響が如実に表れている。

また、9月以前に入社（内定）が決定したとする回答者が増加（理系：57.0%→66.0%、文系：52.1%→54.0%）し、就職環境の良化がここでも伺える。

Q. 就職活動はいつから始めましたか。



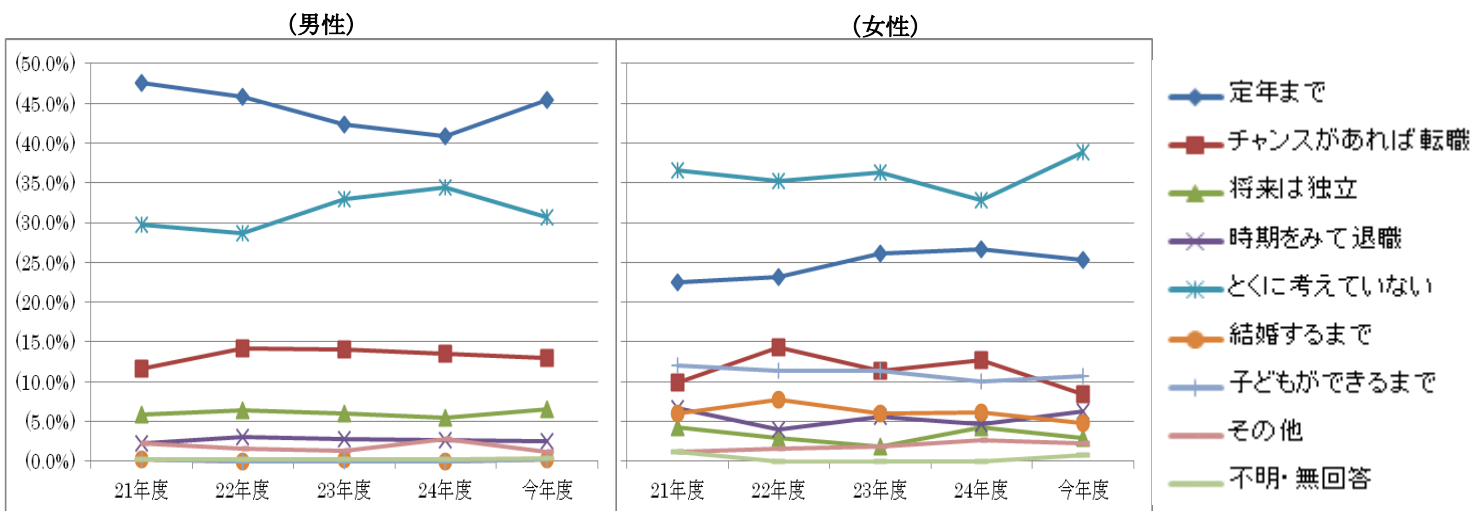
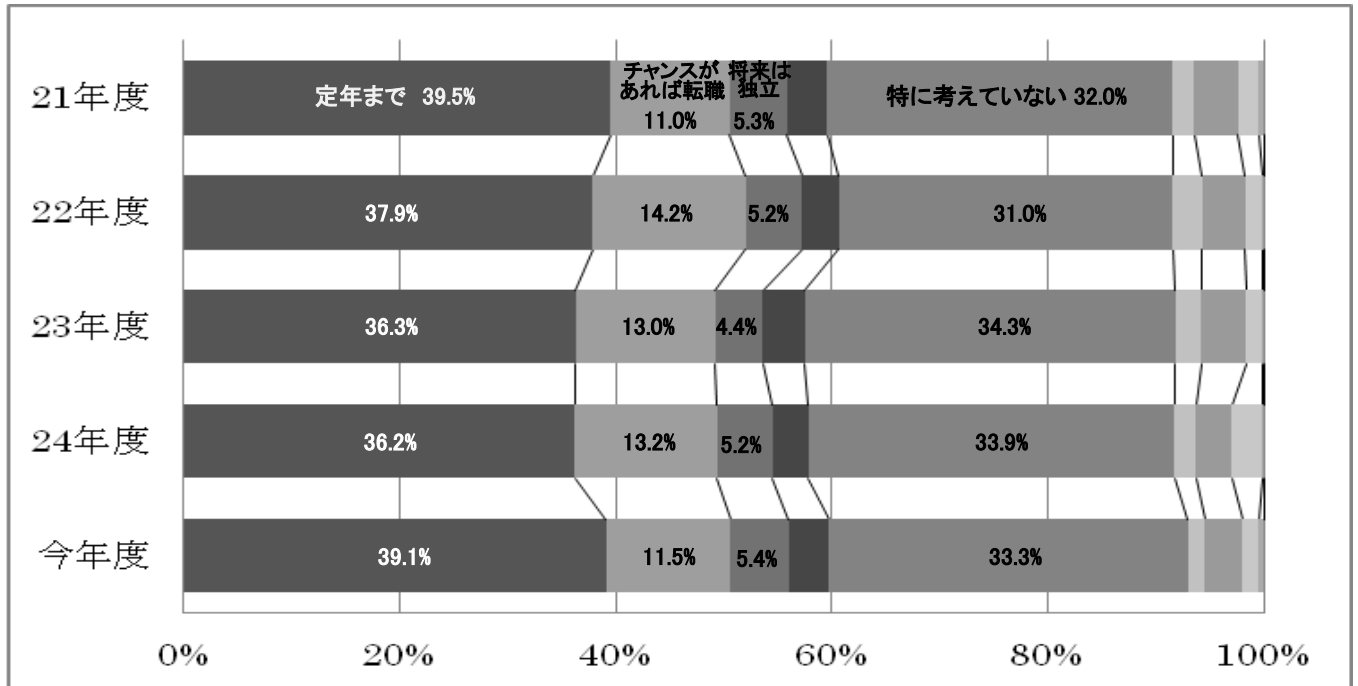
Q. いつ頃、入社（内定）が決まりましたか。



6. 今の会社でいつまで働きたいか

⇒男性に「定年まで」働きたいとの意識が顕著に増加。一方、女性は「特に考えていない」層が急増。

○「定年まで」(36.2%→39.1%)が、特に男性で顕著に増加(40.9%→45.5%)傾向。「特に考えていない」(33.9%→33.3%)は変動がないが、女性に限ると大きく増加(32.8%→38.8%)しており、男女で回答に差がみられる。



7. 仕事をしていく上での不安（3つ選んで下さい）

⇒自己の能力、ビジネスマナーに対する不安は根強く、引き続き増加傾向。ノルマや会社の雰囲気への不安増加が目立つも、情報機器の操作には自信もみえる。

○多くの新入社員が「仕事に対する自分の能力」（76.1%→76.9%）、「社会人としての一般マナー」（45.0%→48.6%）に不安を感じており、いずれの回答も増加傾向にある。また「ノルマ（達成しなければならない仕事）の達成」（21.9%→24.6%）、「会社の雰囲気になじめるかどうか」（24.7%→27.0%）の2点について、伸びがみられる。一方で、「パソコンなどの情報機器の操作」（21.9%→16.5%）は急激に減少しており、PC・スマートフォン・タブレットを日常的に利用している自信の裏返しともみえる。

8. 利用しているSNS（複数選択）

⇒ミクシィが退潮し、ツイッター、フェイスブックが伸びて過半数が利用。女性は大多数が何らかのSNSを活用している。

○ミクシィ利用者が大幅に減少（54.3%→30.3%）。一方、ツイッター（55.7%）、フェイスブック（54.8%）の利用者が過半数を超えた。SNSを「利用していない」（22.7%）とする回答には男女間に顕著な差がみられた（男性：27.5%、女性：12.1%）。約9割の女性は何らかのSNSを活用しており、男性より積極的に交友関係を維持・拡大しようとする意識が表れているものとみられる。

以上